

研究結果報告書

現代日本の若者社会における日本語敬語使用の位置付け：ジャワ語敬語使用との比較

所属：マラナ・キリスト教大学 文学部 日本語学科

役職：専任講師

氏名：シマルマタ・エリザベス・エスター・フィブラ

研究結果

日本語の敬語は高度に体系的、組織的に発達して、世界的に見ても著しい特色をもつと指摘する。このような体系的な敬語の発達には、他に韓国語（朝鮮語）、チベット語、ジャワ語など、少数の言語にしか見られないといわれる（菊池、1997：93）¹。しかし、「認識」の概念に関して、どのような形で敬語使用の変化に影響するのかを、これから調べる必要がある。日本語では、敬語は一般的に「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の三つに分けられ、さらにこれらの基礎的な使用として「話題の敬語」と「対話の敬語」に大別される。ジャワ語にも敬語はあることがよく指摘されているが、敬語使用に対する認識はあまり知られていない。

本研究は社会言語学的観点を取り扱い、日本語とジャワ語における敬語使用の認識について調べることとする。日本語の敬語使用の現状を取り上げながら、ジャワ語の敬語使用の現状を述べていく。結果として、日本人（日本語話者）は「敬語」に対して必要だと思い、「敬語」の存在を肯定して見ている。例えば、日本では、特に若者の敬語運用能力の低下や敬語の誤使用が多くみられると、言語研究者や各メディアに取り上げられている。即ち、規範的な敬語を使いこなすことは社会人の常識とされ、若い頃に敬語を使えなくても、就職すると敬語を身につけるよう努めなければならない。一方、日本の状況と異なって、ジャワ語は地方語として位置づけられる。ジャワの若者は敬語が必要としながらも、日常では複雑なジャワ敬語を回避し、丁寧な公用語のインドネシア語を使用する傾向がある。さらにグローバル化が進む現代において、若者が「国際語」として見られる英語の方に興味を持つという状況がある。そのため、公的場面でジャワ敬語を上手く使用できることの利点は少なくなり、ジャワ敬語の存在感はますます薄くなっている（このような状況下では、今後ジャワ敬語に関する研究も一層難しくなるであろう）。

本研究は今後の敬語研究に貢献できると考えている。ジャワ語や日本語だけに留まらず、敬語研究全般に対しても貴重なデータを示すことができると考える。

¹ 菊池康人（1997）『敬語』講談社

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

公表予定

題名：

The Condition of the Javanese Honorific Use among Contemporary Javanese Youth:
Factual Research based on Reference to the Japanese Honorific System

発表者名：Elyzabeth Esther Fibra Simarmata

会議名：The Eighteenth Annual Linguistics Conference of Atma Jaya
International Level

日時：2020年3月30日～2020年4月1日

場所：Atma Jaya Catholic University
Semanggi Campus, Yustinus Building 14th-15th Floor, Jakarta

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

Simarmata, Elyzabeth Esther Fibra (2019) 『現代ジャワの若者におけるジャワ語敬語使用の
状況』博士論文：東京外国語大学大学院地域文化研究科

<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/93811>

（博士論文の第2章に日本語と比較したジャワ敬語の使用状況が記述されている）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）